東京女子医科大学病院
# 医療連携ニュース
2012年 秋冬号

## 病院長あいさつ

医療連携ニュース2012年秋冬号をお届けいたします。本誌を通して東京女子医科大学病院の取り組みや新しい医療情報などを、日々の医療連携のお役に立てるようお知らせしてまいります。掲載内容は当院ホームページからもご覧いただけます。当院では各診療科が診療科の壁を越えて協力し、最良の医療を提供するように努めています。秋冬号では呼吸器疾患診療に呼吸器内科と呼吸器外科によるチーム医療の実際、また難病である炎症性腸疾患の診療に複数科で対応する炎症性腸疾患センターのご紹介をさせていただきます。今後とも密度の高い医療連携をめざし尽力してまいりますので、窓口となる社会支援部をぜひご活用いただきますようよろしくお願い申し上げます。

## 診療部長あいさつ

呼吸器外科
診療部長
大貫　恭正

### 呼吸器外科

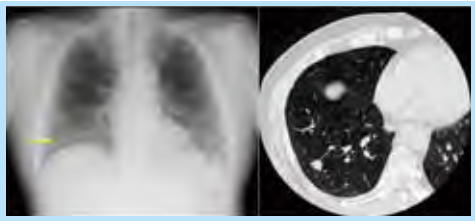
呼吸器外科は肺癌、気胸、縦隔腫瘍、その他肺疾患の診断治療にあたっています。さらに、定期的におこなっているChest conferenceでは、呼吸器センターとして内科、外科に加え、放射線診断科、病院病理科と合同で診断、病態、治療方針などを検討しています。肺手術等では主に胸腔鏡下に施行しています。早期発見の小さな肺癌に対しては小さな創の区域切除などを選択しています。様々な併存症、合併症を有する症例においては、総合病院である大学病院の利点を生かし麻酔科の援助を受けながら、循環器、脳神経、腎臓、消化器科などと綿密に連絡を取り手術の適応、方法を検討しています。また、癌再発等に対しては、当院がんセンター部門とともに、医師のみならず、看護師･薬剤師･臨床心理士･ケースワーカ･栄養士など、様々な分野の専門職種がチームを組んで、全力でサポートいたします。地域の医療機関との連携、情報提供などでより一層充実した呼吸器外科治療を提供したいと考えています。自然気胸、胸膜炎、胸水貯留、喀血、気道狭窄などに対し胸腔ドレナージや気管支動脈塞栓術、気管支鏡（硬性鏡、軟性鏡）によるレザー手術、ステント挿入等の呼吸器疾患での緊急時の対応、入院の受入れをおこなっていますので、当科にご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

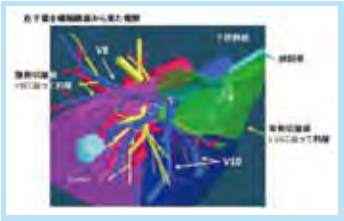
呼吸器内科
診療部長
玉置　淳

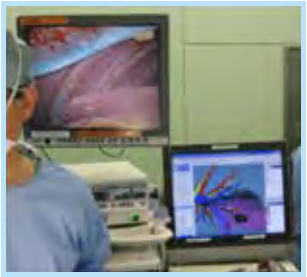
### 呼吸器内科

今や肺癌は男性の死因の第一位となり、喘息や慢性閉塞性肺疾患も年々増加の一途をたどっています。当科では、これらの疾患の専門医を中核とする診療チームを編成し、高度で有機的な診療をおこなっております。他科との連携も密であり、肺癌は呼吸器外科、放射線科、化学療法科と共同した診療を実践しています。喘息に対しては、豊富なエビデンスに基づいた治療はもちろん、難治症例に対する分子標的治療も多数行っています。喘息教室や吸入療法検討会を開催し、症状コントロールは90%以上の症例で可能となっています。慢性呼吸不全患者には、呼吸療法士や栄養士と連携した呼吸リハビリテーションや栄養指導による包括的な医療を導入しています。

## CTTRYを用いた手術シュミレーション







当科では、肺、気管支などの呼吸器、縦隔、胸壁などの疾患に対して、外科治療を行っています。なかでも、中心となっている疾患は、肺がんであります。近年、CT検診の普及や他疾患のスクリーニング検査により、偶発的に発見される末梢小型肺結節影が増加しています。肺がんを疑った場合、確定診断には気管支鏡や経皮肺生検による細胞診、組織診断が必要となります。しかし、小型肺病変では、確定診断に至らないことも多く、その場合、外科的な胸腔鏡下肺生検が行われます。術中迅速組織診で肺がんと確定した場合、引き続き外科治療を行います。これまで肺がんの標準治療は、肺葉切除術+リンパ節郭清とされていましたが、最近では、肺機能を温存した積極的縮小手術である区域切除術が、肺葉切除術と同等の治療成績を認めており、当科でもリンパ節転移のない淡い浸潤影（GGO）に対しては、区域切除術を積極的に行っています。当科では、2007 年からヘリカルCTからDICOM処理を施した画像イメージを用いて、パーソナルコンピューター上で、肺動静脈、気管支の分枝を3次元で再構築するソフトウェア（CTTRYと呼んでいます。）を開発・導入し、術前に手術のシミュレーションを行い、患者さんに適切な術式を選択しています。また、再構築した3次元画像をもとに術中にナビゲーションと使用しています。当科では、肺がん手術のうち 8 割を創の小さい完全鏡視下手術で行っています。完全鏡視下は、モニターのみを見ながら行う手術であります。CTTRY を用いたことで、従来難しいとされていた区域切除術も完全鏡視下で手術が可能となっています。また、術前の 3D 画像システムはいくつも開発されていますが、全て造影剤を用いた enhanced CT を必要とします。それに対しCTTRYは、単純CTで3D再構築が可能で、造影剤のアレルギーの心配もありません。あらゆる点で、患者さんにとって優しい手術、入院加療を目指しております。

2012 年よりダヴィンチによるロボット手術を導入しております。現在は縦隔腫瘍に対する手術を行っていますが、今後肺がん手術に対しても適応拡大の予定であります。

## 呼吸器センター合同カンファランスのご紹介

呼吸器センターでは合同カンファランスとして Clinical Chest Conference（略称 C.C.C）を毎月定期的に行っています。C.C.C. では呼吸器内科から症例提示、放射線科から画像提示、呼吸器外科から胸腔鏡のビデオ供覧などによる手術提示、病理科から病理所見の提示が行われます。第1病棟会議室での大きなプロジェクターを介したプレゼンテーションにより各科が情報を共有し、活発な議論が行われます。時に外部講師を招いて update な内容の講演会を開催することもあります。これらの成果は臨床へのフィードバックとともに若手医師への教育にも役立っています。その成果の一つとして間質性肺炎合併肺癌の手術があります。本疾患は術後に間質性肺炎の急性増悪を来たすことがあり対応が難しい病気ですが、当センターでは呼吸器内科・外科の連携により術前からきめ細かく対応することで術後合併症が減少しています。さらに診断面においても近年、呼吸器内科では超音波気管支鏡を導入し、中枢、末梢ともに肺癌の診断率が向上しています。その結果、手術を含めた治療が早期に開始されるようになっております。以上のように呼吸器センターでは呼吸器内科・外科が密な連携と協力のもと、迅速で質の高い診療を提供するよう務めております。

# 炎症性腸疾患センターのご紹介

第２外科
診療部長
亀岡　信悟

## ■ IBDと医療連携

潰瘍性大腸炎とクローン病などの炎症性腸疾患（inflammatory bowel disease: IBD）は元来、日本では余り多い疾患ではありませんでしたが、ここ数年で飛躍的に増加し、潰瘍性大腸炎は 12 万人を超え、クローン病は 3 万人を超えています。これらの疾患はまだまだ原因が十分解明されておらず、若い方に多いため、行政も原因究明と治療法の開発に重点的に取り組んでいます。東京女子医科大学病院では平成 2009 年に IBD センターを設立し、内科・外科の医師、メディカルスタッフがチームとして、IBD の医療に当たってきました。しかし、未だに少ない専門病院が診断治療に当たっているのが現状で、患者さん方に十分な医療が提供されているとは申せません。この解決策として地域医療と専門病院の医療連携は一つの重要な鍵になると考えています。我々 IBD センターでは多方面の方々とチームを組んで医療連携を推進し、患者さん方に少しでも福音になればと願っています。

## ■ 多因子性の免疫異常で起こる IBD

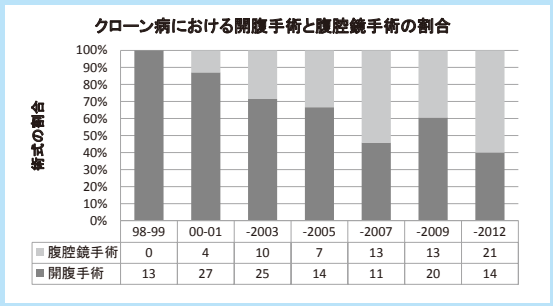
炎症性腸疾患センター内科　飯塚　文瑛

IBD や類縁の腸管ベーチェット病は年々患者数が増加し、治療反応性に様々なタイプが出現しています。また多種薬剤の開発に伴い、その診断・薬物の選択・変更のタイミングなど診療にはより専門性が必要となっています。当院では IBD 専門医が毎日外来･入院にて診療し、他科との連携しチーム医療全体で約 3000 人の IBD を診療しています。

外来診療では、内因性コルチゾール・ACTH 値を検討してステロイド量の漸減･離脱､便潜血定量を活動性炎症の指標に利用など綿密に調節します。適切診療、その効果判定には詳細な病状の把握が必要で、当科企画の IBD 手帳（UC 手帳・CD 手帳）は、患者さんの記載協力により短時間で多量の情報が判断可能で有用です。寛解維持療法は、再燃防止のみならず腸炎併発癌（本邦では全大腸炎型 10 年で 7%、30 年で 20%）の発症防止・内視鏡検査による早期発見も目標となります。腸管外の合併症では皮膚科・眼科・関節炎担当科・神経精神科や、妊娠・出産時では NICU：新生児の集中治療管理や産婦人科、など他の各種専門科と連携。女性医師が多い当院では小児科領域から思春期・妊娠・出産・授乳・子育て期・思秋期・老年期と、あらゆるライフスタイルの患者さんに対応可能です。小児期から老年期まで長期の慢性的な疾患であり、活動期診療の後には紹介元との連携診療も考慮し、患者さんに有用な診療方法を相談していきます。

## ■ 炎症性腸疾患の外科治療

炎症性腸疾患センター外科　板橋　道朗




近年、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）の患者数は増加の一途をたどっています。最近では、一般臨床でも遭遇する機会が増え希少疾患ではなくなりました。炎症性腸疾患センターは、内科医と外科医が炎症性腸疾患の患者さんの生活の質の向上に向けて力を合わせて診療を行っています。炎症性腸疾患の内科治療は、目覚ましい発達があり、多くの患者さんの治療経過が劇的に改善いたしております。外科治療も治療成績が改善してきており、やむを得ず手術をしなければならなくなった場合でも、確実な治療効果が得られるようになってきました。炎症性腸疾患の外科治療においても当センターでは 1998 年から腹腔鏡手術の導入がなされ、多くの患者さんに腹腔鏡手術がなされています。腹腔鏡手術を希望される患者さんが次第に増加して、クローン病の患者さんでは半分以上の患者さんが腹腔鏡手術を受けられています（図）。潰瘍性大腸炎では、約 40%の患者さんに腹腔鏡手術がなされるようになっています。手術の基本は、大腸全摘出するという侵襲の大きい手術ではありますが、手術後の快適な生活が送れるようサポートしながら外来を行っております。状態にあった合併症のない治療を行うのは当然ですが、患者さんに納得していただいて安心して、ベストな治療を受けていただけるよう努力しております。

# 各科医療連携の会 ご紹介

## 糖尿病センターの病診連携の会　糖尿病内科医局長　三浦　順之助

糖尿病センター長
内潟　安子

当センターでは、岩本安彦前センター長のもと、平成 10 年 6 月に当院診療科の中で最も早く診療連携を主旨とした会を立ち上げました（年3回）。糖尿病診療に長年携わる他大学出身の実地医家の先生方を世話人にお招きし、連携を阻むバリアーをなくすことを第一の目標と致しました。当初、女子医大臨床講堂で開催しましたが、その後、外部の先生方が参加しやすいよう平成 17 年から新宿のホテルで開催しております。
平成 23 年 4 月から内潟安子新センター長のもと、世話人に東京糖尿病臨床医会会長に加わって戴き継続しております。去る 10 月 17 日に第 42 回連携の会が盛会裡に終了したところです。プログラムは症例提示（紹介患者報告が主）とトピックスを提供する招聘講演です。事前に約 500 名の参加者リスト全員に講演で聞きたい点を調査し、講演の中に盛り込む形式を取っています。参加者は東京都および近郊の糖尿病に興味をもつ医師とコメディカルで、糖尿病療養指導士の研修単位も取得可能です。14 年間継続しているためか、女子医大 OG や医局の先輩方に加え顔見知りの先生方も多く、患者さんの治療を助け合おうという雰囲気が定着していると思います。これからも更に多くの先生方のご指導ご鞭撻を賜りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

**次回は、平成 25 年 6 月12日（水）　ご案内はホームページ等に掲載致します。**

## 心臓病センター医療連携の会　循環器内科外来医長　佐藤　加代子

心臓血管外科診療部長
山崎　健二

循環器小児科診療部長
中西　敏雄

循環器内科診療部長
萩原　誠久

東京女子医科大学心臓病センターは、昭和 30 年東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所を前身として設立され、以来、心臓血管外科、循環器小児科、循環器内科が一体となりわが国における循環器臨床のパイオニアとして先導的役割を果たしております。地域中核病院の役割を担うためには、地域の先生方の一層のご協力を仰ぎ、地域医療の推進を行う必要があると考え、平成 21 年 10 月に循環器内科（診療部長　萩原誠久）を主体に「東京女子医科大学循環器内科医療連携の会」を発足させました。さらに平成 23 年より心臓血管外科（診療部長　山崎健二）、循環器小児科（診療部長　中西敏雄）を加えて、「東京女子医科大学心臓病センター医療連携の会」へと発展させました。世話人には新宿区医師会長　木島冨士雄先生にご就任いただき、新宿区、中野区、杉並区、練馬区の先生を中心に約 100 名の先生方にご参加いただいております。毎年 10 月第4木曜日に総会を開催し、心臓病センター各科のご紹介、4月には循環器疾患領域の学術講演会をその領域のエキスパートの先生をお招きし開催しております。次回４月学術講演会の詳細は決まり次第「医療連携ニュース」に掲載いたしますので、是非ご臨席賜りますようお願いいたします。
心臓病センターのモットーとする「患者様のための Cardiology」に沿った診療に真摯に努めるよう東京女子医科大学心臓病センター一丸となり、先生方との連携をより一層深めていきたいと考えております。更なるご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

## 医療連携窓口のご案内

当院と地域の医療機関やかかりつけ医の先生方との連携の窓口として、紹介元の先生方からのお問い合わせや、電話やファクシミリによる外来診療やセカンドオピニオン外来の予約を行っております。FAXの専用申込用紙は当院ホームページ　社会支援部の「医療関係者の方へ」から専用申込用紙がダウンロードできます。是非ご活用ください。

**＊予約専用電話　03-5269-7160**　＜月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00＞
**＊FAX診療予約　03-5269-7387**　＜月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00＞

［発　行］平成 24 年 11 月21 日　［編集］東京女子医科大学病院　社会支援部＆医療連携推進委員会
［連絡先］社会支援部　TEL.03-3353-8111(大代表)　内線 20175